道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

バイク・車・乗馬・旅・そして美味しいもの大好きな奥村一家。滋養強壮パンはこんな笑顔から生まれます♪

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

キラキラと金色に輝くフクジュソウが我が家の庭に咲いたのは、48日間の入院生活を終えて彼女が退院した3月4日のことでした。彼女とは、先月号に書かせていただいた親友でシェフの太田信子さん。私がコロナの無症状期に行動を共にした為、「原発不明癌」という基礎疾患を持つ彼女を罹患させてしまったという顛末記でした。緊急入院するも、解熱剤、鎮痛剤、抗生剤、栄養剤など、薬と点滴ラッシュ（最後はカテーテル）。内臓の感染で腹部の痛みは「人生最大！」だったそうです。

食事制限がない彼女に食べ物を差し入れ始めたのは一年前、大学病院に入院した時でした。カフェが終わってから野菜サラダ・ゆで卵・拘りパン屋のパンなどを差し入れると、本当によく食べてくれたのです！食べることが命を繋ぐと実感しましたが、今回のキーフードも、まさしくパンでした。自分がコロナになって喉の痛みで固形物が入らない時に救ってくれたのが、家にあった柔らかいパネトーネ（クリスマスに食べるイタリアのフルーツ入り発酵菓子）。そこから普通のパンが食べられるようになったので、せっせと美味しいパンを運んでみることに。

「お帰りなさい信子ちゃん」。退院祝いに奥村さんが焼いてくれた長野県産全粒粉のカンパーニュ。言葉とバラが嬉しすぎます！

諏訪の「太養パン屋」は私のイチオシで、「次の整体行きには一緒に行こうね！」と話していたパン屋さんでした。昨年9月に女子ツーリングで寄ると、噂通りの雰囲気と美味しさで仰天。夫の実家へのお土産にテレビや雑誌で紹介されると、「あ～また行列が出来ちゃう」と嘆くのは常連さん。朝6時半に並んだパンは、9時でも危うく、お昼までに無くなることもしばしば。今回は「病と闘っている友達にどうしても食べさせたい！」と言うことで、大量予約でゲット。

これほど人を惹きつける「太養パン屋」さん、創業107年を迎えます。その名の如し、「太く養う」という信念で始めた創業の祖父から3代目の奥村透さんは、先代の想いを引き継ぐも、水と国産小麦粉と自家製天然酵母と長時間発酵に拘り、常に新しい何かにチャレンジする好奇心と行動力の塊の人。「いつもビーナスラインで会える」という噂が聞こえるほどの車とバイクとスポーツ好きですが、その血は奥村ファミリー全員に流れているようでした。店で応対してくれる末娘の亜希さんは、ジョッキーになりたくて競馬学校に受かるも、何か疑問を感じて入学前に諦めた後にバイク免許を取得。そして「経験は一生の強みになる」という姉の恵里さんと兄の悠さんに背中を押され、16歳から2年半、働きながら日本一周ツーリングしたそうです。悠さんは現在東京の新鋭パン屋さんで修行中ですが、かつて北から南まで5年間も季節労働者として働いていたという筋金入りのリゾバ！次女の恵里さんも奥様の京子さんも逸話フッシュなので、もっとゆっくりお話してみたい！とにかく職人さんたち18人で作るパンの味ときたらもう、どれも優しくて幸せ感に溢れ、本当に素晴らしく美味しいのです！

初めて行ったのは、家族総出で改装した直後という昨年9月。テラスとカウンターに大感動。諏訪湖SA下り線にもお店あり。

8時台だとパンあり。どれもため息つくほど美味しいの。娘の亜希さんと恵里さん他、スタッフの笑顔もイイよ～！

毎回これ位買って、10個は信ちゃんへ。途中で友人に出会うとあげたくなり、残りは3個ほどに。全制覇まで半年はかかりそう。

すぐに「何なのこの美味しさは」とファンになり、8回の差し入れで50個ほど食べた信子ちゃんでしたが、奥村社長も同じ食仲間として彼女の生き方に感動し、エールを送り続けて下さいました。ビーナスラインからの美しい日の出写真や、元気が出る言葉の数々はまさに命のライン。彼女の周りには、家族や主治医の他に、毎日言葉を掛けてくれたカイロプラクティックの先生やカウンセラーの友人、そしてバイク仲間やお互いのカフェのお客さんなど数えきれないほどの応援者たちがいました。主治医曰く「危うくあっちへ逝きかけた時が多々あった」中、なんとか生還して退院できたのは、彼女の生きようとする強さ、周りの想い、そしてパワフルなパンのお陰と言っても過言ではありません。

退院した彼女が夫君と真っ先に向かったのは、もちろん「太養パン屋」。そのお土産パンをカフェに持ってきてくれた時は、パリダカゴールより嬉しかった（完治ではなく、本当のリハビリはこれからですが）。それにしても、一時は「なんで私が大事な人にコロナうつしたの？」と悩みましたが、退院後に思えたのは、どちらもパワーのまま突き進みすぎて体を壊すタイプなので、神様が考える時間を下さったのかなということ。彼女にとっては過酷な体験でしたが、休み返上で駆け回ったお陰で、私も貴重な事をたくさん得ました。それは、コロナをうつしちゃったからできたこと。キラキラの目で「当たり前の生活がなんて貴重なんだろう」という信子ちゃん。「パン職人をやってよかった」という奥村さんの言葉が今回の終着点となりました。

朝活・午後活。忙しくても自分の時間を大切にする奥村さん。信子ちゃん感動の一枚。

都市計画の中の街路㉞

アーケード空間の賑わい（その1）

東洋大学国際学部・准教授
志摩憲寿

やや個人的なことで恐縮ながら、このところインドネシアのジャカルタとスマラン、インドではムンバイやバラナシを訪ねる機会があり、訪ねるところ訪ねるところで賑やかなストリート空間に改めて驚かされました。こうした賑わいはどのように生まれるのでしょうか？　ところ変わって、イタリア北部のボローニャに見られるアーケード「ポルティコ」は世界遺産にも登録されていたり（写真）、パリのパサージュもまた広く知られており、いずれも魅力的なストリート空間を成しています。それでは日本のアーケード空間の賑わいの淵源はどこに見出すことができるのでしょうか？　ちょうど東京都20区内のアーケード商店街を扱った卒業論文をまとめた学生がおりましたので、彼女の卒論を紐解きながらアーケード空間の賑わいに迫ってみたいと思います。

皆様もお感じの通り、日本でアーケード商店街の数は減ってきているようです。地方都市の主要アーケード商店街を対象とした10年ほど前の調査によると、半数ほどのアーケード商店街が建築的な耐用年数を迎えているが、アーケードの撤去を検討している商店街は概ね3割で、維持しようとしている商店街でも費用捻出に課題を抱えるところが多くみられるようです。アーケードを維持しようにも撤去しようにも合意形成上の問題も重なっています。商店街もご多分に洩れず高齢化が進んでいますし、チェーン店舗が増加していることも合意形成を難しくしています。また、支柱が私有地に建てられている場合には合意形成はますます難しくなってしまいます。さらに、店舗とアーケードを隙間なく繋ぐことのできる技術を持つ企業は日本に数社を数える程度とのことで、技術的にも厳しい状況が生じているようです。

とは言うものの、アーケードは商店街の一体性を創出して賑わいの一助となることは間違いないところでしょう。雨雪に強く濡れずに買い物ができる、夏は店舗からの冷気で涼しく買い物ができるなど、買物客にとっての利便性もさることながら、統一的な看板や街灯、天井から吊り下げられた広告など、さまざまな設えもまたアーケード空間の賑わいを生み出していることでしょう。また、新潟県上越市などで見られる「雁木」のような地域固有のアーケードが織りなす空間もまた大きな魅力です。

世界遺産にも登録された
イタリア・ボローニャのポルティコ

それでは日本のアーケードとは、いつ頃どのように誕生したのでしょうか？　そして、アーケードそのものにはどのような形態的な特徴があるのでしょうか？　次回に着目してみたいと思います。

参考文献：平野早紀（2023）「全蓋式アーケード商店街のにぎわいに関する研究：東京23区内全24アーケード商店街を事例として」（東洋大学国際学部卒業論文）

ハッと思いました

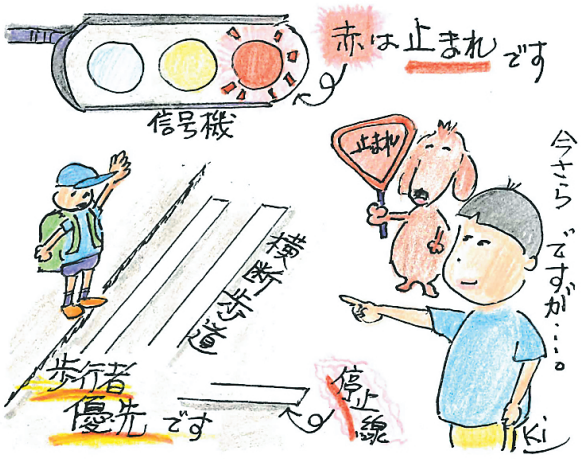
桃の節句も終わり、新入学を目前にして、子供たちがワクワク期待とドキドキ不安の中で、輝いている景色が目に浮かびます。

さてここで、大人として、この子供たちを優しく見守って安全と安心の中で日々を過ごして明るく楽しく成長していけるように範を垂れなければなりません。

当然、道路利用者としては、危険な運転の撲滅・交通規則の完全順守は必要最低限の事。

皆さん、クルマやバイク、自転車に乗った時、ハンドルを握った時は、優しさと緊張を忘れずに、視線と意識を周りに向けて（決して手元のスマホ等に向けてはダメです）、責任ある行動をとりましょう。

もういい加減に、理不尽な悲しい出来事を見聞きするのは御免です。



ふと思ったのですが、クルマって言うのは、中世の鎧の様もの、最近のもので言えば、アイアンマンスーツかな。つまりドライバーや同乗者の安全が第一の発想ですね。でもその考えは、そろそろ改める時期じゃないかな。交通・移動・運搬そして社会生活など総合的に安全と安心の実現に向けて具体的に動き出さないといけないと思いますね。

とは言うものの、どの項目にも、必ず関与しているのが「人間」なので、この「人間」の教育、管理が必要だと思いますが、これが一番困難な厄介な事。どうしてこんなに情けない大人が増えてしまったのか？

子供たちは常日頃から、大人たちを見ています。驚くほど大人の言動を見ています。それを糧にして日々成長しています。小さい子供であればあるほど、「真似」をして育っていきます。本当に子供たちの未来の為にと言うのなら、今の大人がキーポイントです。